

御坊市菌の天性寺に残る

板に記された安政地震津波の記憶

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター研究員

木 村 修 二

□御坊市菌・天性寺の板書「大地震津浪之事」の紹介

＊成立；安政元年（1854）12月上旬

※原本は「嘉永七年甲寅年臘月上旬」付だが、11月27日に改元済み

＊文章作成者；天性寺当住・了範（数え18歳）

執筆者；東町・湯川堂[]

※芝口常楠『今昔御坊一世紀』に寺子屋・湯川堂清兵衛（庚申町）についての記述あり

＊特徴；①木箱の蓋？（弘化四年製）の裏に記している？、②下部が欠損（約5cm分？）

＊内容；①地震・津浪発生時の様子と地域の被害の概要、②天性寺の被害と余震、③地震発生時の心得（若者と老人・子供）

※地震発生からおおよそ1ヶ月後の成立

嘉永7年11月4日の5つ時（朝8時頃）大地震発生（＝安政東海・東南海地震）、翌5日7つ半（夕方4時半頃）大地震（＝安政南海地震）発生。西方の海底から〔大砲のような〕大音響が響く。たちどころに津浪襲来。濱之瀬浦・名屋浦が流失。北塩屋浦は7割方流失。家財の損失、死者も数知れず。津浪は、日高川をさかのぼり、野口村のかう（高）森まで達した。〔西川筋は〕田井の上流入山（美浜町和田）の手前まで達したが、（浜側の）和田・吉原村へは津浪は上がってこなかった。

天性寺の境内にも少々津浪が到達したが、大した被害はなかった。5日の夜4つ時（晩10時頃）前に大地震（余震）が発生し、津浪も上った。一晚中余震があった。余震は日ごとに軽くなっていったが、日に2、3度はあった。こうした状態が11月末まで続いたが、師走にも揺れることがあった。

御宝物や寺内の人々は御坊所（本願寺日高別院）まで逃げ延びた。津浪が襲来したとき、若者は驚き慌てて大急ぎで逃げていた。的確に状況判断をし、若いからといって油断してはならない。老人や子供は（地震が発生したら）直ちに高い方角へ逃げよ。津浪というものはじつに烈しい勢いでやってくるので、老人・子供は決して気を許すことなく準備し、急いで出立することが肝要だ。将来の心得のために書き記しておく。

＊制作動機；津波の教訓を将来へ伝える強い意志 →なぜ板（蓋）に書かれたのか？→蓋としての機能は喪失（華道関係の覚書貼り付け）→虫損痕と湿損痕→掲示の可能性は？（風化無く、室内掲示か釘などのほとんどなし）

□浄国寺の記録に記された安政(嘉永)地震津波地震記録

＊成立；安政2年(1855)3月下旬頃 ⇨地震発生から約5ヶ月近く経過したころ

＊文章作成者；髑園法潤(19歳) ⇨板書作成者・天性寺了範と同年齢

＊大意；

嘉永7年11/4と11/5と二日続けての大地震とその後の余震が翌年3月下旬まで継続。11/4伊豆から潮岬まで津波襲来、11/5は天気良好も突然の大地震ののち海底鳴動、西南方向から大砲のような大音響が(何度も)発生。鳴動時西方に黒雲発生。引き続いて申下刻津波襲来。計三波。各波の到達点。元禄16年(1703)11/23の津波(元禄関東地震津波)および宝永地震津波の比較。寄せ来る波が穏やかだが引き波が凄まじかった。津波の被害度相は、襲来時の日高川河口の「明処」の位置によって異なる。宝永度は菌田烏免の被害が大きかったが、今回は両塩屋浦の被害が大きかった。ただし、今回の津波は寄せ来る波も凄まじかった。被害状況。浄国寺周辺は裏の門外畑が漬かったがこれは西から来た波によるもので、東からの波は1尺余低かった。この津波で、菌御坊周辺の住民は丸山・鐘巻・富安方面へ避難。当寺は昔の話しを聞き伝えていたので誰も逃げなかった。後難を恐れ、本尊・宝物を入山・三宝寺に預けた。5日の津波前に本尊や宝物を長持に入れて「東裏」で守護していた。周辺地域の被害状況。濱之瀬村民の悲劇。御坊村の被害は比較的軽微、宝永度より5寸ほど低かった。井戸の水は平生と変わらず。津浪後の畑。魚類の大量死。濱之瀬の切戸、今回の津波は越さなかった。嘉永5、6年の早魃は前触れ、陰陽和順ならざるゆえの地震だった。6/14の地震(伊賀地震)もその影響。七言律詩。

⇨天性寺板書の欠損を補う情報→大砲(「大礮」)のような大音響(前兆現象)etc.

※教訓文言はなし＝記録に徹する態度

□板に書き記す意味～むすびにかえて

＊制作意図と事例

①記念物；印南町・かめや土蔵板書、徳島県佐那河内村・長願寺扁額

②添書；印南町山口・最勝寺板額(前机台板)、高知県須崎市・須崎八幡宮木札

③祈り；徳島県海南市浅川・千光寺絵馬、高知県佐川町入寺山・阿弥陀堂絵馬

④供養；印南町印定寺・位牌、印南町個人蔵・位牌板地震記録

⑤教訓；白浜町・津波警告板、**天性寺板書**

＊板書記録の特質

⇨・木製(⇨紙・石) ⇒安価、素材の入手・加工のし易さ、一定の強度

・記録容量の限定性 ⇒端的な記事内容(主張ポイントの強調)

・軽量 ⇒モバイル性 ※津波警告板

・明示性 ⇒高札・扁額・絵馬・位牌の経験

※天性寺板書は？ ⇨木箱蓋の再利用、寺子屋師匠の揮毫

＊「記憶」の意味 ⇨「記録」「保持」に終わらせず「想起」することが重要